

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01140

研究課題名（和文）ベトナム・メコンデルタにおけるグローバル果樹産地の形成過程および土地制度との関係

研究課題名（英文）Rural Transition from Rice to Fruit Growing Areas in Mekong Delta, Vietnam

研究代表者

金 どう哲（KIM, Doo-Chul）

岡山大学・環境生命自然科学学域・教授

研究者番号：10281974

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ベトナムのメコン地域では開放政策（ドイモイ）以降、自給的な米作から商業的な果樹産地へ劇的な転換が起こっている。果樹産地として有名なヴィンキム村は典型的なその一例である。ヴィンキム村のスターアップルは1970年代以降国内で広く消費され、2008年からはグローバル市場にまで輸出されるようになった。1980年代半ばまでヴィンキム村の果樹生産は水田の傍ら農家の庭先で細々と栽培する程度であったが、2000年代以降ベトナムが本格的にグローバルサプライチェーンへ編入されるにつれ、スターアップルを中心とする果樹栽培への転換が行われ、現在は村内に水田として利用されている農地が全く無くなるに至っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

（1）グローバルサプライチェーンによる果樹産地の再編といった従来の一方向的な言説から、ローカルな土地制度によるグローバルフードシステムへの能動的な結合という、より立体的な構図が解明された。また、グローバルな農産物認証制度による小規模生産農家の水平的統合が進んでいることや果樹産地のグローバル化の地域性が確認できたことは注目に値する。

（2）果樹産地のグローバル化に伴い、ヴィンキム村ではほぼ均一でルーズな村落社会から階層化された機能組織への変容が確認されたが、フエ省においてはそのような傾向が見られず、ベトナムにおける農村社会の階層分化は地域性を考慮し慎重に議論する必要があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：Vietnam has drastically experienced the rural transition from subsistence rice farming to market-oriented fruit production within a couple of decades after the open-door policy (Doi Moi) in 1986. Vinh Kim Commune, a well-known fruit-growing area in Vietnam, is one of the typical cases. Star apple produced in Vinh Kim Commune, has been consumed nationwide since the 1970s and exported to global markets after 2008. Until the mid-1980s, however, the main livelihood of farmers in this area had been paddy rice, while star apple was traditionally produced in farmers' home gardens as a byproduct. Along with the introduction of the market economy, the farmers converted paddy fields to orchards, especially for star apple growing. At the moment, no more paddy fields remain in Vinh Kim Commune. This research aimed to clarify the processes of rural transition to fruit-growing areas in Vietnam, focusing on the role of each actor: farmers, intermediaries, and the cooperative.

研究分野：人文地理学

キーワード：果樹産地 グローバル化 土地制度 ベトナム メコンデルタ

1. 研究開始当初の背景

ベトナムは肥沃な土地と気候に恵まれ、南部では三期作も可能で、世界有数のコメ輸出国である。また、南部のメコンデルタは "Rice Basket" と呼ばれ、ベトナムにおけるコメ生産の約 55%、輸出用米の約 90% を占めている。他方で、果樹の生産も盛んでベトナム果樹生産の約 60% をメコンデルタが担っており、2000 年代以降は輸出も急速に伸ばしている。

果樹産地はメコンデルタの中でもティエンジャン省、ベンチェ省、ヴィンロン省およびチャビン省に集中しており、ベトナムの農業構造改革を先導している。これらの各省にはメコン川の支流が複雑に巡らされ、従来から水上マーケットが発達し果樹の集積地として機能していた地域が数多く分布している。ベトナムの農業がグローバルサプライチェーンへ編入される以前の果樹生産と流通は、農家の庭先で副業として栽培され(長, 2005)、主に水路で運ばれ複雑な仲買システムを経て周辺の都市部で消費されていた。

ところが、1986 年のドイモイ政策により、市場経済システムが導入され、近年は商業的果樹栽培に特化する農家・地域が急速に増えている。その結果、現在ベトナムで生産される果樹の大半は、果樹専業農家の手で生産され、専門的な仲買人により陸路で全国に運ばれ消費されており、さらにその一部は中国や欧米を中心とする先進国へ輸出されている。こうした変化は地元の新聞からも確認され、国際的な農産物認証制度である Global GAP の認証を取得し海外への輸出を専門とする果樹農家・合作社や企業化した仲買人の成功談も珍しいことではなくなっている。

本研究では、このようなベトナムにおける果樹産地の形成過程を近年のグローバル化に注目しつつ時空間的に分析し、各時期における産地形成の要因を明らかにする。また、近年の果樹産地のグローバルサプライチェーンへの編入に伴う農村地域社会の変容を、フィールドワークを通じて近年のベトナムにおける農業・農村政策と関連付けながら解明する。果樹産地の形成過程の時間軸はベトナム統一後の 1975 年から現在までとし、研究対象地域は果樹生産が盛んなメコンデルタの各省やラムドン省等の果樹産地を行政村レベルで選定する。

2. 研究の目的

ドイモイ(刷新)政策以降、ベトナムは目まぐるしい変化を遂げている。特に 2000 年代以降は農村部の変化が凄まじい。零細なモノカルチャー的な米作から農業の多角化が進展し、近年はグローバルマーケット向けに商業的果樹栽培に特化する農家・地域も急速に増えている。ベトナムへの関心が高まるにつれ、日本でも少なからぬ研究がなされてきたが、近年のベトナム農村の変化を扱った地理学分野の研究は管見の限りほとんど見当たらない。そこで本研究では、ベトナムにおける農業・農村の劇的な変化を先導している地域を事例として取り上げ、伝統的な米作中心の農業構造を根本的に変えている果樹産地のグローバル化に注目し、その形成過程とそれに伴う農村地域社会の変容を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、ベトナムにおける果樹産地の形成過程に明らかにするため、ベトナム全国およびメコンデルタの果樹生産高と輸出額等についての時空間的な定量分析と、調査候補地であるティエンジャン省・チャウタン郡・ヴィンキム村における果樹産地の形成過程と地域社会の変容に関する現地調査を行った。また、上記の結果を、事例地域の特殊性とメコンデルタ全般の一般的な現象・傾向とに分けて比較分析し、ベトナムの農業・農村がグローバルサプライチェーンに組み込まれる過程でローカルな土地制度が果たした役割に関する汎用性の高い結論を導く。

4. 研究成果

本研究課題の2年目の後半から新型コロナウイルスの影響で当初予定していた現地調査を実施できない状況が続いていた。その後も少なからぬ制約が続いたが、期間延長しできる限りの現地調査を行った。それらの現地調査から明らかになった知見を整理すると以下のとおりである。

(1) 農業の多角的と複合的農業システムへの転換

メコンデルタを中心とする一部の地域では農業をめぐる社会経済条件の変化と米作農業自体の高度化・集約化の進展に伴って、米単一から米作をベースにしながら米以外の多様な作物や他の農業部門を加味した多角的・複合的農業システムへの転換が急速に進展していることが確認された。中でも注目に値するのは、メコンデルタの農家は1990年代後半から徐々に果樹栽培面積が増加させてきたが、それを担ってきたのは小規模農家であり、彼らは稲作と果樹栽培を並行し収入機会を多角化するのではなく、果樹栽培へのドラステックな転換を進めてきたことである。

(2) ヴィンキム村における果樹産地の形成過程

研究対象地位であるティエンジャン省チャウタン郡ヴィンキム村ではかつては自給的な水田農業が営まれていたが、1980年代半ば以降スターアップルを中心とする果樹栽培への転換が行われ、現在は村内に水田として利用されている農地が全く無くなるに至っている。また、ヴィンキム村は果樹流通の集積地としても機能しているが、その背景には運河などの自然環境のもたらす立地条件の優位性に加え、仲買人の増加による分業化の進展も果樹産地形成に大いに貢献していることが明らかとなった。

また、このような果樹生産集積地が比較的短期間に形成された要因としては、世帯当たりの水田面積が小さく生活に必要な収入を得るためには果樹生産へ転換せざるを得なかったという自然環境的な要因のほかにも、1980年代以降に大消費地（ホーチミン市）への陸路でのアクセスが可能であったことや仲買人による分業化が市場システムの構築へとつながったことが挙げられる。

一方、ヴィンキム村のスターアップルは全国的な知名度を持っているにもかかわらず、サプライチェーンの未成熟により、消費地では他地域のスターアップルと混じってしまい、知名度の優位性が十分に発揮できない状況であった。また、ヴィンキム村のスターアップル生産農家の多くは認証制度（VietGAPなど）を受けているが、独自のサプライチェーンが構築されておらず、認証制度のメリットも実現されていないという課題も確認された。

さらに、ヴィンキム村における果樹産地の形成過程を土地制度と関連付けながら時系列的にみると、次のようになる。すなわち、ベトナム統一以前は、ヴィンキム村では農家の庭先で栽培された果物が水路ネットワークの結節地に集められ、自然発生的に果樹野菜の集積地が形成された。また、1980年代半ばまでの教祖的な社会主義下の集団農場（合作社）時代には配給制の導入とともに市場が閉鎖され、全体的に果樹生産が後退した。ところが、1986年のドイモイ政策により合作社が解体され農地の再配分がなされると、伝統的な果樹集積地を中心に水田の果樹園への転換が起こった。これは、ドイモイ政策により配給制度が廃止され市場が復活し果樹の需要が急増したこともあるが、合作社時代の経験から再び農地を取り上げられることを恐れた農家の自己防衛的な行動の結果であったと考えられる。農家の庭先と見なされた果樹園はドイモイ政策以前も合作社に取り上げられることがなかったからである。つまり、合作社の解体と農地の再配分が行われた時期は、土地法の改正（1993）以前であり、土地に対する個人の権利が不明確であった。その結果、従来からの果樹集積地を中心に、農家の余剰農産物としての果樹流通が

ら商業的な果樹生産・流通へと農業構造の転換がみられた。さらに、2000年代以降は、ベトナムの本格的なグローバルサプライチェーンへの編入につれ、メコンデルタの果樹産地も国際的な農産物認証制度を導入し海外への輸出を本格化するなど、果樹産地のグローバル化が急速に進展している。

(3) グローバルな農産物認証制度による農家の再組織化

ベトナムでは果樹産地のグローバルサプライチェーンへの編入に伴い、農産物認証制度による農家の再組織化が進んでいる。特に、果樹農家の再組織化には仲買人との社会的関係が重要な役割を果たすことが確認された。すなわち、農産物認証制度に参画するためには生産圃場の認証を受ける必要があるが、そのコストが小規模農家には参入障壁となる。そこで、農産物認証制度を利用し新たなビジネスチャンスを見出そうとする仲買人が従来からの取引のある農家に認証を受けるための費用を支援したり、政府の補助金をあっせんしたりして小規模農家を再組織化する。要するに、ベトナムにおいては、農産物認証制度の普及には、政府の技術的なサポートよりも果樹生産地の仲買人を核とする社会的関係がより決定的な役割を担うことが明らかとなった。

<引用文献>

長 憲次(2005)『市場経済下ベトナムの農業と農村』築波書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 DUONG Thi Thu Ha, Kim Doo-Chul	4. 巻 95
2. 論文標題 Why the Land Consolidation of Vietnam is Incomplete: A Case Study of Binh Dao Commune, Central Vietnam	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geographical review of Japan series B	6. 最初と最後の頁 69 ~ 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/geogrevjapanb.95.69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Thi Thu Ha Duong, Doo-Chul Kim	4. 巻 25-1
2. 論文標題 Contract Farming Through a Cooperative to Boost Agricultural Sector Restructuring: Evidence from a Rural Commune in Central Vietnam	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Economic Geographical Society of Korea	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nguyen Quang, Kim Doo-Chul	4. 巻 99
2. 論文標題 Reconsidering rural land use and livelihood transition under the pressure of urbanization in Vietnam: A case study of Hanoi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Land Use Policy	6. 最初と最後の頁 104896 ~ 104896
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/J.LANDUSEPOL.2020.104896	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Quang Nguyen, Doo-Chul Kim	4. 巻 83
2. 論文標題 Farmers' landholding strategy in urban fringe areas: A case study of a transitional commune near Ho Chi Minh City, Vietnam	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Land Use Policy	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.landusepol.2019.01.038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Doo-Chul KIM, Tuyen Thi Duong
2. 発表標題 Does Agriculture Products Certification System Reorganize Vegetable Farmers?
3. 学会等名 27th Annual Colloquium of the Commission on the Sustainability of Rural Systems, IGU (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Quang Nguyen, Doo-Chul Kim
2. 発表標題 Households' land use in rural transition and urban fringe development: the case of a commune in Long An province, Vietnam
3. 学会等名 2018 IGU Regional Conference
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Holly R. Barcus, Roy Jones, and Serge Schmitz(eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 264
3. 書名 Rural Transformations: Globalization and its Implications for Rural People, Land, and Economies	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ベトナム	フエ農林大学	フエ経済大学	ホーチミン経済大学	